

出口聖子略年譜

【昭和】

19年	18年6月17日	17年春	15年	12年9月	11年9月ごろ	10年2月19日	31年8月7日
ご家族とともに三代さまの茶道稽古 姉・麻子さまとともに三代さまの茶道稽古 能楽・宝生流の稽古をはじめられる。	ご家族とともに竹田別院（兵庫県朝来郡） へ転居。竹田国民学校（後の竹田小学校） へ転校される。	亀岡国民学校（後の亀岡小学校）にご入学 この頃	若柳流舞踊を習われる	ご家族とともに亀岡・中矢田農園へ転居 この頃	警察の監視厳しく、ご家族とともに上野町 藤山の「雑草居」へ転居	出口直日三代教主と出口日出麿教主補の 3女として綾部に生誕。聖師さまは神聖運 動にちなみ「聖子」とご命名。尊師さまは「安 産の御礼祝詞や梅日和」「ホギヤホギヤと 泣けば可愛ゆし福寿草」と詠まれる 5月30日 聖誕後満百日にあたるこの日、出口すみ子 二代教主、三代さま方とともに恒例の弥仙 山参拝へ 第2次大本弾圧に遭遇される 2月8日 ご家族とともに綾部・上野町月光閣へ 8月25日	朝陽館が完成し、三代さまとともに住まわ れる
23年春	27年	26年4月	25年春	23年春	25年春	23年春	31年8月7日
のほどきをうけられる	京都で川那辺宗貴師に茶道を習われる 三代さま居宅として、葉がくれ居が完成 し、三代さまとともに住まわれる	同志社女子高校にご入学。 竹内敬花明山植物園長に伴われ、白山、 大山、和歌山県下などで植物採集。当時「生 涯かけて植物の勉強をしたい」といわれる 京都・室町の金剛能楽堂で行なわれた大 本歌祭で舞姫をつとめられる	麻子さま、京太郎先生とともに「萩の庵」 に住まわれる 大本歌祭が事件以来15年ぶりに復活し、麻 子さまとともに舞姫をつとめられる。以 後、昭和31年まで歌祭の舞姫を毎年つとめ られる	竹田小学校をご卒業。京都の信徒宅に下宿 されて、同志社女子中学にご入学。この頃 三代さまのおすすめにより、金剛流の金剛 滋夫師（金剛流25世宗家・金剛巖師）に能 楽を師事される	麻子さま、京太郎先生とともに「萩の庵」 に住まわれる 大本歌祭が事件以来15年ぶりに復活し、麻 子さまとともに舞姫をつとめられる。以 後、昭和31年まで歌祭の舞姫を毎年つとめ られる	23年春 のほどきをうけられる	31年8月7日 朝陽館が完成し、三代さまとともに住まわ れる
30年4月	41年9月	40年	35年4月	34年3月	35年4月	34年3月	31年8月7日
京都女子大学文学部国文学科にご入学。こ の頃アララギ植土会（夏山茂樹師主宰） にご入会、「橘玉日」の名で「はにつち」 に短歌を投稿しはじめられる。瑞祥館で宇 高宗香師に茶道を習われる	11月2日	7月11日	10月	4月	10月	4月	31年8月7日
青年部八雲琴科講師に 花明山植物園長にご就任。北海道をかわき りに、東北、信州、北陸、東海、四国、九 州などへ植物採集に出かけられ、十年後に	葉がくれ居にご夫妻でお住まいになる 三諸宴さん誕生	東光館完成舞台披露で小鼓独調「七騎落」 をご奉納（東京） 開祖聖誕祭で舞囃子「紅葉狩」をご奉納	大本本部に奉職。以降、三代さまのおそば で、全国各地へのご巡教に随行される 八雲琴の稽古をはじめられ、以降、月次祭・ 大祭の伶人をつとめられる 小鼓の稽古を曾和博朗師についてはじめ られる	京都女子大学文学部国文学科卒業 京都・北野中学校に国語教師として奉職。 翌年3月ご退職 三諸齋氏と結婚	麻子さま、京太郎先生とともに「萩の庵」 に住まわれる 大本歌祭が事件以来15年ぶりに復活し、麻 子さまとともに舞姫をつとめられる。以 後、昭和31年まで歌祭の舞姫を毎年つとめ られる	34年3月 4月	31年8月7日 朝陽館が完成し、三代さまとともに住まわ れる

11月18日	は同園標本数1万点に。教嗣ご就任後もご親教の寸暇を利用し山野で植物採集。名譽園長ご就任(平成5年2月)まで23年間園務をつとめられる 出雲火のご用70周年記念祭典で出雲大社へ。田中緒琴家元とともに八雲琴「菅搔曲」「出雲語」「琴の由来」をご奉納	52年3月 5月19日	茶名「宗緒」をうけられる 祭務部奏楽課長に 本部奏楽講師に 第1回みろく顕現祭・大本歌祭がニューヨーク聖ヨーク聖ヨハネ大聖堂で執行され、祭典で伶人にご奉仕、歌祭では舞姫を	60年2月3日 61年5月18日	長生殿御造管推進委員会顧問に 聖師・二代教主出雲ご巡教40周年記念として、舞囃子「西王母」を出雲大社神楽殿でご奉納
47年6月	ペンネーム「花明山その」で草木に関する随想を「おほもと」誌にご執筆。人類愛善新聞(ハナかおり)を含め、平成4年12月まで20年間にわたって長期連載される	54年4月6日 55年5月10日	海外演能委員会委員に 第2回みろく顕現祭がニューヨーク聖ヨハネ大聖堂で執行され、伶人にご奉仕 教主ご名代として能「羽衣」ご奉納 英国カンタベリー大聖堂で教主ご名代として能「羽衣」ご奉納	63年1月 3月6日	三代教主代行となる(「教主代行」ご在任2年8カ月) 教主代行初のご親教として口丹波主会管下へ、27日まで(※この後、教主代行ご在任中、全国18地方機関をご親教になる 北陸本苑設置30周年記念春季大祭へ。祭典ご臨席後、舞囃子「西王母」をご奉納 オランダ・ロッテルダムで開催の第73回世界エスペラント大会に大本参加団名誉団長としてご参加になる。大本分科会で八雲琴「振放曲」をご演奏 聖師さまご来道60周年記念あしわけ大祭へ。祭典ご臨席後、舞囃子「西王母」をご奉納
49年4月1日 7月3日	教主館(緑寿館)造管委員に オランダ・ロッテルダムで開催された海外作品展に大本青年文化使節派遣団相談役としてご参加、八雲琴を演奏される。5日まで	56年1月1日 57年5月 29日	神苑整備委員会委員に 教主継承者(教嗣)となる 第3回みろく顕現祭がニューヨーク聖ヨハネ大聖堂で執行され、伶人にご奉仕。祭典後、仕舞「桜川」をご奉納 教嗣初のご親教として出雲路へ。以後、教主ご名代として全国各地をご親教 三諸齋・聖子さまご夫妻、三代教主・教主補さまのご養子に。出口姓となられる	5月15日 7月25日	【平成】 元年3月27日
50年3月15日	米国で初の海外作品展がニューヨーク聖ヨハネ大聖堂で開催され、舞囃子「西王母」と小鼓の連調「高砂」を、また田中緒琴家元らとともに八雲琴「高倉山」をご奉納 国連創立30周年記念第5回世界精神頂上会議(TOU)奉告祭が聖ヨハネ大聖堂で執行され、伶人をつとめられる。23日のTOU会議では国際婦人年記念のパネル討議で教主ご名代として「女性によって創始され、女性によって導かれ、世界の文化と平和に貢献しようとする大本」と題し、英語でスピーチ	9月27日 11月27日	フィリピンの大本マニラ支部大神鎮座祭へ。8月4日まで 南太平洋・ポナペ島の愛善農園旧跡碑建碑式へ。9月3日まで	8月7日	
10月20日		58年7月31日 8月29日		9月15日	「大本はたば(機場)」が完成し、機織り始めをされる(梅松苑)。その後、長生殿・老松殿神殿の壁代、戸帳、御簾、神旗のほか、功勞者用にお守り袋、み手代袋などを織られる 聖師皆神山ご入山60周年記念秋季大祭へ

2年4月8日	上谷参拝へ(綾部)						
7月8日	杵島・冠島開き90周年、開祖平和祈願杵島ごもり85周年記念祭典へ(現地)						
8月3日	ムルタカ比叡山会議に名誉顧問代理としてご参加(京都)	2月3日	なる(※全国六十一機関、一七〇回余、五〇〇日間を超すご親教をされ、信徒数万人と親しくご面会された)	11月1日	奈良岡の家別院秋季大祭へ。八雲琴「安国曲」をご奉納。3日まで		
2年9月23日	出口直日三代教主が昇天し、四代教主に就任(55歳)。		大本節分大祭・教主ご就任祝賀全国信徒大会で「三代さまが水晶の種であられましたので、その大切な種を大事にするだけでなく、苗床に移し育てさせていただくというお役をいただいていると思います」と	12月	教団は「脳死を人の死とすることに反対する」声明を発表		
9月30日	ご献歌「水晶の種と生れ給ふ三代の教主の御跡をかしこみ継がなむ」「祈りつつ只祈りつつ吾が行かむゆくてに雨風吹き荒ぶとも」「代々の教御祖の御跡を踏みて行かなむ今日よりの吾」(火継ぎの神事にて)みろく殿での世界宗教者平和の祈りの式典へ	4月28日	弥仙山参拝、大本開祖岩戸ごもり90周年記念中の宮祭典へ	4年3月19日	教主さまへのインタビュー「心の『立替え立直し』が毎日新聞夕刊で掲載される花明山工房(天恩郷)を約30年ぶりにお使いになり、ご作陶をはじめられる。長生殿建設記念品や地方信徒下付用に膨大な量をお作りになる		
11月5日	三代教主五十日祭で八雲琴「出雲詣」ご奉納	5月4日	みろく能にて仕舞「笹之段」をご奉納	春頃	教主さまへのインタビュー「心の『立替え立直し』が毎日新聞夕刊で掲載される花明山工房(天恩郷)を約30年ぶりにお使いになり、ご作陶をはじめられる。長生殿建設記念品や地方信徒下付用に膨大な量をお作りになる		
26日	教主ご就任後初の新聞記者会見を朝陽館で。教主としての心構えについて「母からは人を許す気持ちを、父からは人を見る目を持つことを教えられた」と述べられたうえで、みたま磨きと教団の内面充実、後継者育成をはかりたいと	6日	元伊勢お水のご用90周年記念参拝へ	4月29日	竹田別院開設60周年記念春季大祭へ		
11日		11日	教主ご就任慶祝・東光苑春季大祭へ。13日まで	5月4日	みろく能で仕舞「西王母」をご奉納		
26日		8日	聖師聖誕一二〇周年記念み手代歌碑大祭へ。13日まで	5日	長生殿初のみろく大祭で八雲琴「出雲詣」をご奉納		
12月28日	長生殿各棟の正式呼称をご命名	7月6日	開教百年記念神苑整備事業として春日坂通り石垣工事はじまる。このち一貫して「樹木を生かすように」とご指示になり、神苑にふさわしい環境整備を両聖地でご指示、実行される	6月13日	開教百年慶祝北海本苑あしわけ大祭へ。扁額除幕、記念植樹。17日まで		
31日	百日間の教主服喪期間あける	13日	出雲火のご用90周年・大本教祖記念碑建立20周年記念祭典へ。出雲大社正式参拝、記念歌祭にもご臨席。15日まで	7月8日	開教百年記念杵島・冠島代表参拝へ		
3年この頃	能「西王母」に向けて2、3年、朝拝や夕拝の後、また移動車中などで寸暇を惜しんで稽古にはげまれる	9月8日	聖師聖誕一二〇周年・杵島開き75周年記念祭典へ	8月7日	長生殿能舞台鏡松の老松下絵に「惟神靈幸倍世」とご染筆		
1月13日	教主ご就任後初のご親教として大阪本苑管下へ。この後、平成12年10月までの10年間、全国すべての機関をくまなくご親教	14日	三代教主歌碑建立20周年記念皆神山大祭へ。17日まで	9月8日	開教百年記念神島祭典へ		
		23日	教主ご就任一年を期し「ご神意のまにま	10月10日	開祖・聖師・二代・三代教主参拝80周年記念杵良洲神社祭典へ。11日まで		
				11月	長生殿完成		
				5年5月4日	長生殿完成慶祝能で能「西王母」を奉納		
				8月7日	聖師ご巡教70周年・み手代歌碑建立30周年み手代歌碑大祭へ。31日まで		
					第30回日本エス・ペラント大会(亀岡市)が開催され名誉大会長を務める。		

9日	大本エスぺラント普及会創立70周年記念式典（綾部市）を開催（名誉会長）。茶道裏千家元鵬雲斎宗匠による献茶式（綾部市・長生殿）。	9月6日	しい「神の家」の建設が進む 京都新聞で教主さまへのインタビュー記事「祈り込め―独自の平和運動」が掲載される	9年	典へ。岡山本苑秋季大祭で記念植樹も行なわれる。25日まで
10月					
11月	「世界宗教者の祈りとフォーラム」を長生殿で開催、代表呼びかけ人となられる	24日	出雲本苑設立10周年記念秋季大祭へ。26日まで	4月	春―無農薬をめざす稲作が大本神饌田で始まり、田植え、稲刈りに自らご出仕になる
12月5日	天恩郷月次祭後、祭典伶人とともに八雲琴「出雲新嘗」ご奉納	10月28日	聖師古岡発言50周年記念鳥取本苑秋季大祭へ。30日まで	4月26日	教団は「遺伝子組み換え作物の食品表示を求める声明文」を厚生大臣に送付。
6年5月4日	みろく能で舞囃子「葛城」をご奉納	11月5日	第1回全国愛善歌奉納大会へ。善言美詞の愛善歌を歌うことの大切さ、歌詞内容のすばらしさ折々に話され、愛善歌合唱の気運を盛り上げられる	5月2日	奈良岡の家別院開設30周年記念大祭へ。27日まで
10月9日	青年部発足30周年記念式典へ			5月28日	教団本部は臓器移植法案に関する要望書を政府に提出
11月6日	梅松苑信徒会館（松香館）地鎮祭へ。自主献金をすすめられる	11月16日	松香館が自らのご発意による初の建物として完成	6月14日	大本資料館に筆先など根本教典、お作品等の収納が終わり、館内をご視察になる
12月4日	天恩郷月次祭後、祭典伶人とともに八雲琴「神の都」をご奉納				
25日	尊師三年祭（老松殿）で祭典伶人とともに八雲琴「宮の辻」をご奉納	8年4月6日	聖師ご巡教80周年記念祭（走水神社・横須賀）へ。8日まで	17日	「臓器移植法案に対する願い」文を発表。
7年1月		5月3日	第2回全国愛善歌奉納大会で出口家合唱団アンジェーロの一員として愛善歌をご奉納。	8月4日	教団本部は「臓器移植法案」参院審議前に緊急記者会見し反対表明。
2月19日	「阪神大震災で災害救援対策本部を設置。救援物資について指示 還暦を迎えられる	5月23日	鉢伏山開き50周年記念祭典へ	11月29日	臓器移植法に対する反対声明」発表
3月17日	初の琉球主会管下ご親教で、各支部のほか第二次世界大戦殉難者慰霊祭へ。20日まで	6月20日	日本宗教連盟創立50周年記念式典へ（東京）		比叡山宗教サミット10周年記念「世界宗教者平和の祈りの集い」へ（比叡山延暦寺）
5月3日	教主還暦慶祝梅松祭・三代教主教主補聖誕祭で八雲琴「天津少女」をご奉納	7月8日	国見山遥拝所設置50周年記念杵島冠島遙拝祭へ		大本教主として初の南米ご親教。南米本部功労者・物故者合同慰霊祭、愛善堂建設40周年記念大祭ご臨席、舞囃子「胡蝶」をご奉納。そのあと南米本部管下全12支部2会合所へご親教。飛行機などを乗り継ぎ、11日間でブラジル国内1万キロ余をご移動、信徒419人とご面会になる。
6月4日	「教主ごあいさつ集」（一）刊行	8月8日	愛善みずほ会「DONO」新装開店式へ。愛善みずほ会運動の重要性を繰り返しおのべになり、同運動を復興される		ご移動、信徒419人とご面会になる。12月23日まで
30日	教派神道連合結成百周年記念式典へ（東京）	8月27日	日本宗教者会議設立会議へ。教主さまは名誉顧問になられる		
7月8日	人類愛善会創立70周年記念式典（天恩郷）で「食・農・環境」を運動の主軸にすることを明示される	9月8日	神島開き80周年記念祭典へ。記念植樹も行なわれる	10年	特にこの年から、教団内における脳死臓器移植に関する研鑽が進み、反対運動が活発
9日	開祖杵島ごもり平和祈願90周年記念祭典へ 大阪本苑完成奉告祭へ。こののち各地で新	11月22日	笠取神社「神恩洪大」碑建立20周年記念祭		

		化する。四代さまは「かつての原水爆反対運動以上に大きな平和運動である」とおっしゃり「科学の暴走」を警告し、全信徒の先頭に立つてこの運動を強く推し進められた					
1月28日		教主さまへのインタビュー「科学の暴走を憂う」が産経新聞夕刊に掲載される	10月	脳死・臓器移植反対署名全国縦断キャラバン隊全国に派遣	9月8日	鶴山窯(鶴山工房登り窯)火入れ式へ。32年ぶりの窯焚きを喜ばれる	
30日		教団本部は臓器移植法に関して政府へ要望書提出	11日	静岡市内での脳死臓器移植反対街頭署名活動にお出ましになる	9月29日	ニューヨーク国連本部で開催された宗教指導者らによるミレニアム世界平和サミット「国連宗教者平和会議」でスピーチ(廣瀬麻子教主名代代読)、生命倫理諸問題について宗教者の奮起を促される	
4月18日		宮原山開き70周年記念祭典へ。21日まで	11月6日	少女時代に採集された植物標本が白梅殿で展示される(大本開祖大祭)	10月4日	神島遥拝祭へ	
5月25日		教団本部はインドの地下核実験に対して抗議声明文送付。29日パキスタンの同実験に対しても抗議声明文送付	20日	神戸本苑秋季大祭・完成奉生祭へ。21日まで	10月16日	大阪市立総合医療センターにご入院。その後大本開祖大祭(11月6日)、開祖聖誕祭(12月16日)、尊師毎年祭(12月25日)、梅松苑新年祭(1月1日)ご臨席のためお帰りになる	
6月17日		京都市内で初のノン・ドナーカード配布街頭活動。以降全国各地で活動を展開	11月	教団は脳死移植反対署名41万4567人分を厚生省に提出			
7月18日		伯耆分苑設立・大山農場50周年記念祭へ。19日まで	12年2月	綾部市・エルサレム市友好都市宣言署名式へ。	10月16日	教団本部は「脳死移植に関する法律の見直しに関する要望」と脳死・臓器移植反対署名「総数87万1571人」を厚生省に提出	
8月21日		聖師ご来道70周年記念あしわけ大祭へ。24日まで	3月13日	北陸・神聖苑の木の桜植樹式へ	11月6日	『教主ごあいさつ集』(二)が刊行される	
10月10日		梅松塾開設30周年記念祝賀会へ	19日	筑紫本苑昇格50周年記念春季大祭へ。20日まで			
16日		熊本本苑秋季大祭・道明殿「完成奉生祭」へ。19日まで	25日	長周分苑設立記念春季大祭へ。27日まで	13年1月1日	新春を梅松苑でお迎えになり、新年祭で年賀のあいさつをおうけになる。	
30日		二代さまの個展「出口すみこの世界展」へ(東京銀座・ゴラクギャラリー)	4月9日	近江本苑設置20周年記念春季大祭へ。11日まで	31日	ご退院。節分大祭ご臨席のあと2月6日天恩郷へ。2月21日再入院される	
11月14日		北陸本苑設置40周年記念大祭へ。16日まで	5月3日	教主生誕祭で八雲琴「木の花」をご奉納	4月22日	廣瀬紅さま、教嗣(教主継承者)に。出口姓となられる	
21日		東京本部開設30周年記念東京歌祭へ。22日	4日	みろく能で仕舞「難波」ご奉納	28日	出口紅教嗣ご臨席のもと、開祖岩戸ごもり	
		東光苑秋季大祭にご臨席	6月23日	伊勢神宮外宮・香良洲神社に正式参拝される		百年記念弥仙山参拝	
11年4月8日		上谷幽斎修行百年記念参拝へ	7月8日	杵島・冠島開き百周年記念参拝へ(国見山遥拝所)	4月29日	午前11時16分大阪市立総合医療センター	
11日		京都本苑開設50周年記念大祭へ	25日	エルサレムで大本祭式による世界平和祈願祭を執行		で昇天。享年66歳	
5月4日		みろく能で仕舞「東北」ご奉納					
5月5日		脳死臓器移植反対署名活動はじまる。長生					